

## 三輪悟研究員が上智大学特任助教（教員）に就任

上智大学アジア人材養成研究センター研究員三輪悟氏が、2018年9月1日付で上智大学特任助教（教員 Assistant Professor）に採用されました。

三輪助教は、1999年4月よりカンボジア王国シェムリアップ州にある「上智大学アンコール研修所」（2002年改称：アジア人材養成研究センター）に国連ボランティア（UNV）として派遣されました。派遣期間終了後もそのまま遺跡の調査・研究を続けるため現地に残り、建築分野の研究者

として活動してこられました。主としてカンボジア人保存官候補の人材養成のため、アンコール遺跡の現場において、多年にわたり指導にあたってこられました。

三輪助教は上智大学が推し進める「ソフィア・ミッション（国際奉仕活動）」を遺跡現場で実践するとともに、上智大学の建学精神「他者のために、他者とともに生きる（Men and Women for Others, with Others）」に従って、内戦の後遺症が残るカンボジアにおいて、カンボジア人保存官とともに遺跡現場に張り付いて教育活動を担当してこられました。

加えて、三輪助教は現地センターに駐在し、以下の業務を担当しておられます。①人材養成・調査研究・文化遺産教育の諸活動、②センターの現場責任者として管理と運営、③アンコール・ワット西参道修復に伴う工事現場の責任者（第1期工事ではカンボジア人石工総勢60名をまとめ上げました。2期工事は現在進行中）、④同じく工事現場責任者として、カンボジアのアプサラ機構と協力しながら保存修復の活動に日々獅子奮迅の活躍、⑤R. マグサイサイ賞受賞の陰の実務者であります。

今後も、三輪助教には世界遺産アンコール・ワット修復第2期工事の大事業に遺憾なくその実力を発揮してもらい、ソフィア・ミッションのため、ご尽力いただくこととなります。

（文責 石澤良昭）



一時帰国した三輪悟氏を祝う、アンコール・ワット西参道技術交流委員会・募金委員会のメンバー